

マニフェスト

少子超高齢化・人口減少が急速に進む中、区ビジョンを踏まえ、区の将来像「都市と農村が融合する、うるおいの住環境と優れた学術環境に育まれるまち」を目指し、地域のなかで人と人とのつながりを大切に、ともに支え合い、いつまでも元気で健康的に、そして安心・安全に暮らせるまちづくりを推進します。

また、地場産農産物のブランド化を推進し、生産及び消費の拡大を図り農業基盤の強化を進めるとともに、農商工連携による付加価値化や商店街の活性化、都市と農村の一体感の醸成に繋げていきます。

さらに、豊かな自然の継承と快適な住環境の確保を進め、「安心・安全で住んでよかった！ これからも住み続けたい！ 多くの方に住んでもらいたい！」と区民に実感していただけるよう、地域との協働により人口減少にも対応したまちづくりを推進します。

この方針のもと、西区は今年度、次の3つの取組を重点的に実施します。

1. 地域への愛着を深め、健やかにいきいきとした暮らしづくりを推進します。
2. 魅力あふれる食と農を活かし、農商工連携による地域活性化を推進します。
3. 豊かな自然と環境を大切にするまちづくりを推進します。

マニフェスト実現に向けた取り組み

1 地域への愛着を深め、健やかにいきいきとした暮らしづくりを推進します。

現状  
(課題)

乳幼児から高齢者まで全ての区民が、地域に愛着を持ち、毎日をより健やかに、地域で安心して暮らしたいという思いは、区民共通の願いです。

これまで、区民等と市との協働の要である区自治協議会と共に、地域のまちづくりや課題解決に取り組んできましたが、少子超高齢化・人口減少が急速に進む中、地域課題はますます複雑化、多様化しており、区自治協議会及びコミュニティ協議会などとさらに連携を深め、協働により区の課題解決やまちづくりに取り組んでいく必要があります。

近年、一人暮らし高齢者の増加や核家族化の進行などにより、地域のつながりが希薄化し、社会から孤立する高齢者や子育て世帯が増加しています。超高齢社会を迎え、区民が健やかに暮らしていくためには、地域のなかでともに支え合う仕組みづくりや、健康寿命の延伸を図ることも重要です。

また、地域防災力向上のため、自らの命を守るための避難行動や避難所運営などについて啓発するとともに、自主防災組織の活動をさらに活性化し、安心・安全なまちづくりを進める必要があります。

<b>課題解決策</b>	<b>目標</b>	平成 30 年度までに、「西区・区ビジョンまちづくり計画第 2 次実施計画」のうち、関連する主な取組事項を全て達成
	<p>区自治協議会やコミュニティ協議会などとさらに連携するとともに、社会福祉協議会などの関係機関を含めた区の総力を結集し、人口減少社会に対応した地域課題に、区民と協働により取り組んでいきます。</p> <p>地域のつながりが希薄化するなか、高齢者や子育てに不安を抱える親に対し、地域ぐるみで見守り、支え合うしくみづくりが必要です。</p> <p>日常生活圏域ごとに設置した「支え合いのしくみづくり会議」の推進員を中心として、コミュニティ協議会や自治会などの地域団体と協働で、地域で高齢者を支え合うしくみづくりをさらに進めるとともに、同居者の入院入所や、死別などにより一人暮らしの状態になった高齢者を専門職が継続訪問し、孤立防止のための必要な支援を引き続き行います。</p> <p>超高齢社会において、地域に密着した健康づくりと仲間づくり、さらには健康寿命の延伸に向けて、地域や関係機関と連携した健康づくりや介護予防を進めるとともに、特定健診等未受診者への受診勧奨を進めていきます。また、受診結果から、血圧・脂質・血糖が有所見のハイリスク者への健康相談や動脈硬化予防対策を拡充していきます。</p> <p>子育て中の親の孤独感、不安感を軽減させるため、子育て支援体制や子育てネットワークの充実を図ります。</p> <p>また、地域防災力の向上に向けて、地域の避難マップの作成や自主防災組織による防災訓練など、地域の自主的な取り組みを支援していきます。</p>	
<b>主な取組</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区自治協議会・コミュニティ協議会との協働</li> <li>・ 高齢者等が安心して生活できる支え合いのしくみづくりの推進</li> <li>・ 一人暮らしになった高齢者世帯への専門職による継続訪問の実施</li> <li>・ 地域と取り組む健康づくりと介護予防</li> <li>・ ハイリスク者を対象とした健康相談事業や動脈硬化予防教室の実施</li> <li>・ モデル地区(中野小屋・黒埼地区)において、健診未受診者への受診勧奨を実施</li> <li>・ 各年代に対応した子育て支援講座の実施</li> <li>・ 地域の避難マップ作成</li> </ul>	

主な取組の指標達成状況	設定数	1 2	達成数	1 1
取組結果	<p>区自治協議会やコミュニティ協議会などとのさらなる連携では、喫緊の課題である「人口減少を踏まえた地域づくり」について、コミュニティ協議会との区政懇談会を活用し、地域カルテなどから地域特性を分析した資料を基に地域と意見交換を行いました。地域では、人口減少に対応した新たな取り組みが始まっています。</p>			
	<p>自治協議会においては、3回にわたって、降雪時の支え合いの仕組みづくりについてご議論をいただいたほか、自治協議会提案事業として、地域における人口減少への取り組みの一助となるよう、「地域カルテから始めるまちづくりワークショップ研修会」を実施しました。</p>			
	<p>また、地域への愛着を深める取り組みとして、特色ある区づくり事業「出動！西区地域盛り上げ隊（中学生みらいデザイン編）」を実施し、6つのコミュニティ協議会と次代を担う中学生が地域課題解決の方法を考えるワークショップ等を行いました。「くろさき茶豆」のPRなど、地域課題の解決に向けた中学生のアイデアが実施されています。</p>			
	<p>高齢者が安心して生活できる支え合いのしくみづくりの推進にあたり、「訪問型生活支援サービスの創出」の累計が2件、「地域の茶の間の増加と拡充」の累計が32件と目標を大きく上回りました。特に週1回以上開催の地域の茶の間は平成30年度に11件増加し、支え合いのしくみづくりを進めました。</p>			
	<p>また、一人暮らしになった高齢者への訪問では、201人の実態を把握し、早期に保健福祉サービスにつなげるなど予防的な支援を実施しました。</p>			
	<p>地域と取り組む健康づくりと介護予防については、「西区発！健康ステップアップチャレンジ」などの健康づくり事業を会場、回数を増やして実施し、参加者数1,986人と目標を大きく上回ったほか、ハイリスク者が多いという西区の健康課題を踏まえた取り組みとして、ハイリスク者健康相談等を実施し、区民の健康寿命の延伸に取り組みました。</p>			
<p>また、モデル地区特定健診未受診者対策として、中野小屋地区では前年度3年連続未受診者に受診勧奨チラシを送付し、今年度の新規対象者へはアンケート調査を実施しました。さらにアンケートの返送がなかった方に対して、電話や家庭訪問による受診勧奨を行いました。黒埼地区では前年度3年連続未受診者及び今年度の新規対象者に前年度の調査結果と受診勧奨チラシを送付するとともに、前年度の重点対象者（今年度受診すると回答された方）と新規対象者へ電話による受診勧奨を行いました。</p>				
<p>子育て支援については、乳児期から学齢期（前期）までの各期に渡る子育て支援講座を合わせて11会期開催し、参加者数は目標を上回り、育児の不安や孤独感の軽減、仲間づくりを進めました。</p>				
<p>地域防災力向上のため、自主防災組織を対象に、新たに専門家を活用したワークショップを開催し、目標の7組織の地域において、避難マップ作成の支援を行いました。</p>				

地域課題の解決に向けて、自治協議会において、ワークショップ形式で議論を深めるほか、コミュニティ協議会とは、区政懇談会において、地域特有の課題について意見交換を行うなど、引き続き、活動に対する支援に取り組んでいきます。

高齢者が安心して生活できる支え合いのしくみづくりを更に進めるため、引き続き、区民の皆様から支え合いのしくみづくりをご理解いただくための研修会を開催するとともに、啓発パンフレットを作成します。

また、一人暮らしになった高齢者への訪問については、次年度も引き続き実施し、平成30年度に把握した対象者でも必要な方には継続して支援を行っていきます。

健康寿命の延伸と介護予防を進めていくには、個人が率先して健康づくりに取り組むことが重要なため、区主催の健康づくり事業のほか、自治会や地域の茶の間などへ出向いての健康づくりの支援を進めます。また、西区の課題であるハイリスク者対策として、健康教室と健康相談を引き続き開催していきます。

健康寿命の延伸に向けた特定健診受診率向上では、アンケート調査の結果を協力いただいた方や地域にフィードバックすることにより、健康への関心を高めていただき、健診受診の意識を高めていきます。また、アンケート結果への対策として、「医療機関との連携強化」と「受診を後押しする対策」の推進とともに、健康に無関心な人への意識付けを進めます。

子育て支援については、今後も子どもの各年代に対応した子育て支援講座を開催するほか、新たに妊娠期から乳幼児期まで、子育て情報をSNSで対象者に確実にお届けし、切れ目のない支援を図ることで、育児の不安や孤独感の軽減、仲間づくりに取り組んでいきます。

また、新たに障がいのある方の自立支援にも取り組みます。

津波や洪水などの自然災害から自らの命を守ることができる地域づくりを進めるため、8組織を対象に地域の避難マップ作成の支援に引き続き取り組みます。

2 魅力あふれる食と農を活かし、農商工連携による地域活性化を推進します。			
現状 (課題)	<p>西区は都市と農村が共存しており、良好な住宅地や商業施設、大学が集積するとともに、「くろさき茶豆」や「いもジェンヌ」など良質で魅力的な農産物にも恵まれています。</p> <p>一方、持続可能な力強い農業を実現するため農地の集積・集約の推進や、耕作放棄地の再生による西区振興作物の作付拡大を進める必要があります。</p> <p>西区特産農産物のさらなる知名度向上のため、市内はもとより、首都圏を中心にPRや販売促進に取り組み一層の消費拡大を進めるとともに、西区の魅力を積極的に発信することで都市部と農村部の交流を拡大する必要があります。</p> <p>また、商工業・農業関係団体や大学との連携を強化しながら、農商工連携を推進し、地場産物の高付加価値化や商店街の活性化につなげていく必要があります。</p>		
課題 解決策	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;"><b>目標</b></td> <td>平成 30 年度までに、「西区・区ビジョンまちづくり計画第 2 次実施計画」のうち、関連する主な取組事項を全て達成</td> </tr> </table> <p>県内初の地理的表示(GI)保護制度に登録された「くろさき茶豆」をはじめとする地場産農産物について、首都圏を中心に積極的なPRと販売促進に取り組むほか、農業体験ツアーや農業まつり等を通じて、生産地における新たな交流を創出し西区及び農産物の魅力を広く発信します。</p> <p>農業まつりや西区新鮮あさ市の開催により生産者と消費者の交流の場を設け、地産地消と消費拡大を推進し、また、農商工・大学連携を活用して「くろさき茶豆」や「いもジェンヌ」など特産農産物の生産拡大や高付加価値化に取り組むとともに、農地の集積・集約や耕作放棄地の再生に取り組み、農業基盤の強化と商店街や地域の活性化につなげます。</p> <p>さらに、西区の一層のPRを図るため、区の事業やイベント等への「西区かがやき(PR)大使」越乃リュウ氏の参加を通じて、「くろさき茶豆」や「いもジェンヌ」をはじめとする西区の魅力を区内外に継続して発信していきます。</p>	<b>目標</b>	平成 30 年度までに、「西区・区ビジョンまちづくり計画第 2 次実施計画」のうち、関連する主な取組事項を全て達成
<b>目標</b>	平成 30 年度までに、「西区・区ビジョンまちづくり計画第 2 次実施計画」のうち、関連する主な取組事項を全て達成		
主な 取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業体験ツアーを通じたPRと市場やアンテナショップ、関係者会議など首都圏でのPRや販売促進</li> <li>・ 特産品ごとの農業まつり開催</li> <li>・ 「くろさき茶豆」を活用した商店街や地域の活性化</li> <li>・ 「いもジェンヌ」の生産面積拡大や商品開発等への支援</li> <li>・ 農地の集積・集約による持続可能な農業の確立</li> <li>・ 耕作放棄地の再生による西区振興作物の作付拡大</li> <li>・ 西区かがやき(PR)大使等を活用した区の魅力の発信</li> </ul>		



	主な取組の指標達成状況	設定数	8	達成数	5
取組結果	<p>国の地理的表示(GI)登録産品「くろさき茶豆」や食と花の銘産品「いもジェンヌ」など、西区の特産農産物のPR・販売促進活動を、首都圏を中心に積極的に展開したほか、首都圏からのモニターツアーなどの実施により生産者と消費者の交流の促進とともに、地場農産物の発信と消費拡大に取り組みました。</p> <p>西区の特産品である「新潟すいか」、「くろさき茶豆」、「大根」の収穫時期に合わせて農業まつりを開催し、多くの方から来場いただき、知名度向上や消費拡大につながりました。</p> <p>「くろさき茶豆夏の陣」を、茶豆の収穫時期に合わせて約1カ月間開催し、消費拡大や商店街・地域の活性化を図ることができました。</p> <p>J Aや商工会とで組織する「いもジェンヌ農商工連携協議会」において、「いもジェンヌ」の生産拡大支援や加工品の開発支援、イベントなどを通じたPRを実施し、一層の消費拡大を図ったほか、区内の全小学校で「西区一斉いもジェンヌ給食の日」を開催するなど、食育の推進にも取り組みました。</p> <p>担い手への農地集積については、農地中間管理事業を活用した農地集積の話し合いを進め、2地区（大友・藤蔵新田）で地域単位での取り組みができました。そのほか、次年度へ向けて話し合いが継続されている地区もあり、広く農地の集積・集約について周知を図った結果、認定農業者等への農地集積率は目標を達成しました。</p> <p>耕作放棄地の解消については、農業委員会と連携して取り組んだ結果、目標を上回って農地を再生することができました。</p> <p>また、「西区かがやき(PR)大使」によるPR事業などを実施し、西区の魅力を広く区内外に発信するとともに、区民の一体感の醸成を図りました。</p>				
今後の方針	<p>「くろさき茶豆」をはじめとする西区特産農産物のさらなる知名度向上のため、市内及び首都圏におけるPRを引き続き実施するとともに、農商工・大学連携に加え、県や銀行などとの連携により、一層の販路と消費の拡大、高付加価値化とブランディングの確立に取り組みます。</p> <p>担い手への農地集積については、他地区でも人・農地プランの話し合いが開始されるよう、関係機関と連携して働きかけを行っていきます。</p> <p>耕作放棄地の解消については、既存の「西区農地再生サポート事業」に加え、次年度は、西区独自の「耕作放棄地未然防止事業」を新たに実施し、耕作放棄地の発生防止と解消を進めます。</p> <p>また、「西区かがやき(PR)大使」により、西区の魅力を区内外に継続して発信するとともに、区民の更なる一体感の醸成を図ります。</p>				

3 豊かな自然と環境を大切にすまちづくりを推進します。			
現状 (課題)	<p>海岸保安林の保全は飛砂被害の抑制に結び付くため、関係機関との連携を強化しながら松くい虫被害への対策を強化するとともに、保安林の環境保全を行っているボランティア団体やコミュニティ協議会などへの継続的な支援が必要です。</p> <p>また、魅力的な自然や観光資源を有効活用し、ニーズにあった観光ルートや環境整備による誘客に取り組みながら、「佐潟」を中心とした観光資源の情報発信や区内他地域のまち歩きコースづくりを進め、引き続き交流人口を拡大していくことが必要です。</p> <p>国道 402 号の飛砂対策は、平成 26 年度から実施してきた人工堤防の築造などにより、効果が形となって表れていますが、引き続き、交通障害や住宅地への飛砂被害への抜本的な対策の推進が求められています。</p> <p>区民のきれいなまちづくりに対する意識は向上し、多くの区民から環境美化活動に参加していただいておりますが、海岸付近や西川、新川では、ごみの放置や不法投棄が依然として発生しており、引き続き環境の美化が求められています。</p>		
課題 解決策	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;"><b>目標</b></td> <td>平成 30 年度までに、「西区・区ビジョンまちづくり計画第 2 次実施計画」のうち、関連する主な取組事項を全て達成</td> </tr> </table> <p>松くい虫被害を最小限に抑えるため、無人ヘリコプター防除や伐倒駆除を実施するとともに、ドローンを活用した有効な防除策の構築のための実証試験を進めます。また、ボランティア団体やコミュニティ協議会などの保安林保全活動への支援を引き続き行い、啓発活動を進めるとともに、保安林整備講座の開催等によるボランティア団体の育成に努めます。</p> <p>赤塚地域・佐潟周辺の「北国街道」沿いのまち歩きや西蒲区と連携したツアー、さらに黒埼及び内野地域のまち歩きを行うとともに、赤塚地域の自然景観をテーマにしたコースやマップの作成を行い、地域団体やボランティアガイドの協力を得ながら交流人口の拡大を図ります。</p> <p>国道 402 号の飛砂対策は、引き続き、地域住民・海岸管理者等と一体となって進めるとともに、新潟大学等と連携しながら効果を検証し、抜本的な対策を進めます。</p> <p>自治会やコミュニティ協議会、ボランティア団体、近隣区等と連携して、より多くの区民、団体に環境美化活動に参加してもらうことにより、区民一人ひとりの環境保全に向けた意識の醸成と西区全域の環境美化に取り組めます。</p>	<b>目標</b>	平成 30 年度までに、「西区・区ビジョンまちづくり計画第 2 次実施計画」のうち、関連する主な取組事項を全て達成
<b>目標</b>	平成 30 年度までに、「西区・区ビジョンまちづくり計画第 2 次実施計画」のうち、関連する主な取組事項を全て達成		
主な 取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海岸保安林の保全・育成活動団体への支援(保安林整備講座開催, 物品等の貸出)</li> <li>・ ボランティアガイドを活用したまち歩き・ツアーの実施と赤塚地域の砂丘・自然景観を活かしたコースの作成・活用</li> <li>・ 佐潟を活用した自然保護意識の醸成と交流人口の拡大</li> <li>・ 国道 402 号の飛砂対策の実施</li> <li>・ 西区の環境美化の推進</li> </ul>		

	主な取組の指標達成状況	設定数	6	達成数	5
取組結果	<p>海岸保安林の松くい虫防除のため、無人ヘリコプターを活用した薬剤散布などに取り組んだ結果、平成 30 年度の被害木駆除本数は、平成 29 年度比約 40 パーセントの減少となり、被害木は着実に減少しています。</p> <p>また、海岸保安林の保全活動を行う団体数は、活動団体の P R や「西区保安林クリーンキャラバン（保安林整備講座）」の開催等により、目標どおり 1 団体の増加となりました。</p> <p>ボランティアガイドを活用したまち歩き・ツアーは 17 回開催し、参加者アンケートによる満足度も 89 パーセントといずれも目標を上回る結果となりました。</p> <p>また、地元団体との協働により、赤塚地域のまち歩き・砂丘歩きのガイドブックが完成し、赤塚地域の魅力の更なる発信とともに、佐潟・水鳥湿地センター 20 周年記念事業「佐潟・赤塚フォトコンテスト」を開催するなど、交流人口の拡大に取り組みました。</p> <p>国道 402 号の飛砂対策は、飛砂防止柵の更新を進めるとともに、人工堤防を 140m 築造しました。この取り組みにより、住宅地への飛砂被害や交通障害の抑制とともに、道路上の除砂回数が減少するなどの効果が現れています。</p> <p>西区の環境美化の推進として、西区一斉クリーンデーや海岸清掃等に多くの区民に参加いただきましたが、一方で、夏の猛暑や休日の悪天候が多かったことから、予定していたボランティア清掃ができない団体が多数あり、参加団体数の目標を達成することができませんでした。</p> <p>また、今年度は新たな取組として、中学生からポイ捨て防止の標語を募集し、優秀作品をごみ収集車に掲示し啓発を行うなど、区民に対する環境美化意識の向上を進めました。</p>				
今後の方針	<p>海岸保安林の保全・育成については、引き続き、適期に無人ヘリコプターによる薬剤散布及び伐倒駆除を実施し、松くい虫被害対策を進めるとともに、保全活動を行う団体の P R や啓発活動等により、活動参加者の増加に向けた取り組みを進めます。</p> <p>まち歩き・観光ツアーについては、区内に点在する「佐潟」など魅力ある自然景観や史跡などの活用のほか、西区の特産農産物の収穫体験や地元飲食店での昼食提供など、食と農を組み合わせた集客できる観光コースを企画造成し、地域の魅力の再発見と交流人口の拡大を図ります。</p> <p>飛砂対策は、今後とも住宅地への被害の低減と国道 402 号の安全確保に向けて、抜本的な対策に継続して取り組みます。</p> <p>区民の環境保全やきれいなまちづくりに対する更なる意識の向上に向け、コミュニティ協議会や自治会等との協働により、西区一斉クリーンデーやボランティア清掃などの活動に、より多くの人から参加してもらえるよう、引き続き取り組みを進めていきます。</p>				